

奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画（第2次）

令和4年度実施結果概要

計画		目標と取組内容	令和4年度の実施結果	
(1) 被害防除	1) 防護柵	保護地区（A、B地区）に近く農業被害が大きい地域について、被害防除対策（防護柵の設置）を実施する。	<p>【資料3-2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第7回検討委員会において検討した防鹿柵の設置方針に基づき、奈良阪町（鼓阪地区）において、令和5年2月～3月に防鹿柵を703.6m設置した。 <p>【資料3-3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防鹿柵設置場所の検討フローに基づき、第2次計画期間中（令和5年度以降）における防鹿柵設置優先度が高い地域（鼓阪地区、東里地区、飛鳥地区）を抽出した。 	
	2) 環境管理	土手の草や藪の刈り払い、耕作放棄地の再利用、緩衝地域の整備により、シカが出没しにくい環境管理を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理は未実施。 	
(2) 捕獲	捕獲方針に基づく捕獲事業	<p>シカの生息密度が高い地域かつ農業被害意識が高い地域で加害個体あるいはその可能性が高い個体を捕獲する。</p> <p>期間：令和4年5月27日～令和4年12月15日</p> <p>地区：下記8地区のD地区に含まれる集落</p> <p> 狛友会奈良支部：田原地区、精華地区、東市地区、帯解地区</p> <p> 狛友会柳生支部：東里地区、狭川地区、大柳生地区、柳生地区</p> <p>方法：箱わな、足くくりわな</p> <p>頭数（上限）：8地区で合計160頭</p> <p> 狛友会奈良支部：80頭</p> <p> 狛友会柳生支部：80頭</p> <p>※両支部とも各地区の捕獲数の上限は設定していない。</p>	<p>【資料3-4】</p> <ul style="list-style-type: none"> 左記8地区で捕獲を実施し、令和4年12月15日時点で160頭を捕獲した。 オス：96頭、メス：64頭 <p>【資料3-5】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鼓阪地区よりシカの捕獲についての要望があり、令和5年度以降の捕獲対象地区への追加を検討した。捕獲場所の選定基準を踏まえ、追加は妥当との結果となった。ただし、保護地区に生息するシカへの影響を最小限にするために、捕獲実施時期を繁殖期前（4～8月）に限定し、加害個体の捕獲をこの期間に集中して実施することとした。 	
(3) モニタリング	1) 被害調査	①農業被害調査	<p>シカによる農林業被害の状況把握、各地域において実施すべき対策内容の検討、捕獲実施地域の選定、対策（捕獲、防鹿柵設置等）による被害軽減効果の把握のため、アンケートによる調査を行う。</p>	<p>【資料3-6】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年農業被害アンケート調査を実施し、607の回答を得た。 回答率は25.9%となり、過年度調査結果（H30:22.4%, H29:21.5%, R1:33.9%）よりも回答率が低下した。 被害「増加」の回答割合は、捕獲を開始した直後の平成30年度を比べると、水田においては、捕獲を実施した地域では11.4ポイント減少、捕獲を実施していない地域では0.6ポイント増加していた。 畑においては、それぞれ8.6ポイント、2.6ポイント減少したことから、捕獲実施地域における被害意識の低減が見られた。 一方、被害「減少」の回答割合は、水田においては、捕獲を実施した地域では2.4ポイント、捕獲を実施していない地域では1.3ポイント増加したが、畑においては、それぞれ2.2ポイント減少、0.2ポイント増加し、捕獲の有無が被害意識の「減少」にまでは結びついていない。

(3) モニタリング	1) 被害調査	②防鹿柵効果検証調査	対策（被害防除対策）による被害低減効果を検証するため、前年度に防鹿柵設置箇所において、対策前後の農業被害等について把握する。	【資料3-6】 ・令和3年度に設置した防鹿柵の効果検証調査（ヒアリング及び現地調査）を実施し、防鹿柵による被害軽減効果を確認した。 ・入口ネットの引きちぎり、農家仮設ネット部分からの侵入を確認したことから、補修の指導及び今年度防鹿柵設置の余り資材を提供した。
		③捕獲効果検証調査	対策（捕獲）による被害低減効果を検証するため、捕獲実施集落における農業被害等について把握する。	・ヒアリング及び現地調査の対象地域を、捕獲数、捕獲努力量、農業被害アンケート調査結果に基づき選定した。
	2) 生息状況調査	①生息密度調査	シカの生息状況の把握、捕獲実施地域の選定、捕獲数の設定、捕獲の効果検証のため、冬季に糞粒法調査を実施する。 対象地域：B、C、D地区	・令和5年度に実施予定。
	3) 捕獲個体調査	①基本情報調査	・個体群の基礎的な情報評価等のため、捕獲個体に関する情報（性、外部計測値）を収集する。	【資料3-6】 ・捕獲個体に関する情報（性、外部計測値）を収集した。 ・体重の平均値について、雌雄ともに各齢区分で過年度と大きな違いはなかった。
		②詳細情報調査	・個体群の状況把握、捕獲個体の状況把握のため、捕獲個体に関する情報の収集を行う。 ・捕獲個体数、捕獲位置、捕獲個体の性、体重、乳汁分泌の有無の記録を行い、捕獲個体から下顎、切歯、生殖器、遺伝子解析用サンプルとして筋肉片を収集する。 ・遺伝子解析用サンプルについては、次年度以降の分析に供するため冷凍保存する。	・捕獲個体数、捕獲位置、捕獲個体の性、外部計測値の記録を行い、捕獲個体から下顎を収集した。このうち、性別、齢区分、栄養状態、妊娠・泌乳状態を分析した。 ・遺伝子解析用サンプルとして筋肉片を採取し、将来分析のための試料として保存した。
	4) 捕獲作業の記録		・捕獲作業の評価を行うため、捕獲に関する情報（わな設置地点、わな設置基数、わな稼働期間、捕獲数、捕獲位置、見回り記録等）を収集する。	・捕獲に関する情報を収集し、分析した。 ・改訂したわな管理表を、捕獲従事者に配布、記入を依頼した。